



78 八阪神社

室町時代にはあったと伝わる地域の鎮守。通称「大仁(だいに)八阪神社」。かつての界隈の呼び名・大仁は、朝鮮半島の百済から渡来し、仁徳天皇に「咲くやこの花」の歌を献じた王仁(わに)博士に由来。明治時代は茶屋町界隈までが氏地で、茶屋から人力車で初詣に来る参拝客も多かった。全国の八阪神社と「坂」の字が異なるのは、大坂の「坂」が「阪」へと表記が変わった頃に大阪市担当者の手続きで知らぬ間に変更されていたとの理由。
▶大淀中 3-1-23 参拝自由



浦江公園の北側に位置。境内に稲荷社がある

76 梅田墓跡

江戸から明治時代にかけて造営された梅田墓は「大坂七墓」のひとつで貞享年間(1684~88)に当地に移転。江戸時代には「七墓巡り」が流行り、当時は肝試し感覚のデートコースでもあった。2019年12月下旬、うめきた2期区域の西南端で約1,500体の埋葬人骨と約350点の蔵骨器などが発掘された。
▶大深町 2

77 暁鐘成墓所

幕末の浮世絵師・戯作者であった暁鐘成。歴史マニアでなくても一度は目にしたことがある江戸時代の観光ガイドブック『摂津名所図会大成』の著者で、なんと勝楽寺に眠っている。江戸後期の大阪を繊細なタッチながらも、ユーモアたっぷりに描いている。
▶大淀中 4-5-12 勝楽寺内 参拝自由



鐘成の名は「鐘成翁至釈道観」と背面右下に

74 与謝蕪村句碑

「菜の花や 月は東に 日は西に」。モニュメントに刻まれる歌は、毛馬生まれの俳人・与謝蕪村が、あたり一面に広がる菜の花畑で遊んだ幼少期を懐かしみ詠んだもの。温もりある蕪村の俳句をこよなく愛した阪急グループの創始者・小林一三は、梅田芸術劇場の前身・梅田コマ劇場の開場が最後の事業だった。ちなみに、蕪村の生誕地の碑と句碑は毛馬の閨門近くの淀川河川敷(都島区)に建っている。
▶茶屋町 19-1 梅田芸術劇場前

75 北向地藏尊

紀伊國屋書店梅田本店の横に鎮座。1891(明治24)年に近くの畑から掘り出され、阪急三番街の完成とともに移設された。一般的にお地藏さんは上座となる南向きが多いが、あえて北向きとし、人々の願いを叶える力が強いとされる北向地藏は全国でも400体ほどと少ない。
▶芝田 1-1 参拝自由

73 鶴乃茶屋跡碑

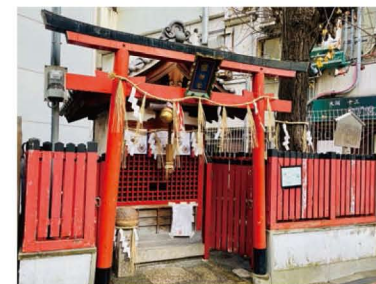
ファッションビルの真ん中に溶け込むように建っている石碑。旧能勢街道(池田街道)沿いだった当地に江戸時代から茶屋ができはじめ、明治中期には「鶴乃茶屋」「萩乃茶屋」「車乃茶屋」という3軒の料理茶屋が集まっていたことから「茶屋町」と呼ばれるようになった。かつては梅や菜の花の名所として、花見のために多くの人で賑わっていた。
▶茶屋町 8-26



NU 茶屋町と NU 茶屋町プラスの間にあり、都会と歴史が混在する北区らしい名所だ

71 歯神社

全国的にも珍しい歯の神社。もとは地域のお稲荷さんだったが、江戸中期に淀川が氾濫した際、御神体の巨石が洪水を防いだことから「歯止めの神様」と崇められ後に「歯の神様」と慕われた。毎年6月4日の例祭では神事後、歯ブラシ製造会社が奉納した歯ブラシが先着100名に授与される。
▶角田町 2-8 参拝自由



梅田ESTのそばにあるロケーションが面白い

72 凌雲閣跡

明治中期から昭和初期まで「キタの9階」と呼ばれた、当時の「高層タワー」が茶屋町にあった。大きな池や温泉を持つ「有楽園」という遊園地のシンボルとして建てられた高さ約39mの木造建築。展望台からお茶を飲みながら大阪市中を眺めることがトレンドだった。
▶茶屋町 2-9

MINI COLUMN

昔から大阪人は高いところが好き?

大阪に高層タワーが最初にできたのは明治中期。難波には「ミナミの5階」と呼ばれた5階建ての「眺望閣」、茶屋町には「キタの9階」と称された「凌雲閣(りょううんかく)」が続いて建ちました。てっぺんにある展望台から大阪市中の景色を眺めることが当時のトレンドだったそうです。時代を経て技術は進めど、大阪人が高い場所を好む気質は変わっていません。



昭和初期まで茶屋町にあった「凌雲閣」

梅田東・大淀東・大淀西

UMEDA-HIGASHI / OYODO-HIGASHI / OYODO-NISHI

実は明治期から若者が集まる観光スポットだった梅田東界隈。流行りを面白くアレンジして取り入れてきた「大阪らしさ」が、今もグランフロント大阪や茶屋町などの街に投影されている。かつては梅田東までを氏地とした大淀エリアの神社にも足を運んでみよう。

明治期から大阪の「新名所」

AREA MAP

